

大垣、西濃信金12日合併 単独での営業が終了

ATM統合や
看板掛け替え 準備が最終段階

大垣信用金庫(本部 大垣信金は1924
・大垣市)と西濃信用金庫(同・瑞穂市)は
12日に対等合併し、「大垣西濃信用金庫」が誕生する。それぞれ単独
で最後の営業日を迎えた8日、各営業店を訪れた顧客からは新金庫
への期待が聞かれた。

大垣信用金庫は1924年設立、51年に大垣信用金庫に改組。西濃信金は48年設立、53年に西濃信用金庫に改組した。両金庫は昨年1月、人口減少など経営環境が変化する中で収益基盤を強化するため合併に合意。1年掛かりで準備を進めてきた。

9、11日の3連休中、両金庫の現金自動預払機(ATM)は休止し、システム統合を行う。12日午前8時に再開する。本部機能の引っ越しや看板などの掛け替え作業も進める。

8日、西濃信金創業の地、揖斐郡大野町大野の本店営業部でも午後3時に職員が最後の客を見送り、シャッターを下ろした。婦人服販売会社社長の飛田哲也さん(72)は「父親の

代からの付き合い。今まで通り地元金融機関として身近で頼りになる存在であってほしい」と話した。

大庭忠明理事長は「67年余のご愛顧を受け、地元とともに発展してきた伝統を引き継ぎ、新金庫と地域社会の発展のために努力する」とコメントした。



閉店時刻を迎え、最後の来店客を見送る職員＝揖斐郡大野町大野、西濃信用金庫営業本部